

ヒアリングにおける論点等（委員発言要旨）

「札幌の経済を支える企業の基盤強化と創業・人材育成の促進」

「札幌市経済の成長を牽引する重点分野の振興」

【】内は意見番号 ○数字は仮指摘事項案の番号

■事業目的の明確化

・趣味の領域でももちろんいいと思うが、札幌市として支援するということは、税金を使っているので、きちんと利益を出す、経済活動として成り立つような本物の女性起業家をふやしていくことを大前提のもとに支援していくやり方をつくっていくべき。

【1】⑦

・食と観光とか健康という大きなくりを、もうちょっと具体的に、札幌の食と観光とか、札幌の健康は何を目指すのかという具体的なビジョンを、本にまとめるだけではなく、それを企業や市民のみんなに示してほしい。【3】⑤

・札幌は集約して発信するポータルサイトみたいなまちなので、もっと具体的に、私たちは北海道の中でこういう役割を担うために食と観光をこう捉えるというようなことをもっと明確にするべき。【4】⑤

・もう少し具体的にこういう人を育てたいのだという札幌市としての理想を明確に示さなくていいのか。今だと、来るものが来たら、いいんじゃないのというように何となく感じてしまう。何か最初にビジョンがあるといいのでは全体に感じた。広報の仕方もすぐかかわってくる。あまり限定してしまうと、また問題なのだが、そこは少し明確なものがあった方がいいのでは。【18】⑦

・女性と言うけれども、では、札幌はどういう女性たちが多いのかという、最初のマーケティングの原則である整理とか分析というところがあまりなされていないのではないかと。何かそこをもう少し丁寧にやったらどうか。【19】⑦

■募集手法の見直し

・パンフレットのイメージと、別紙1で、こういう形で融資案件がありますという例で、少し齟齬がある。今後、パンフレットの改訂などを検討するのであれば、現在、こういう助成を受けているというようなことも含めて記載すると、利用者も増えるのかなという印象がある。【14】⑥

・本来デザインとはこういうものであるというのは、イコール経営戦略と直結していると思うので、考え方や事例をまだあまり意識のないところに対してどう普及していくかということは、この事業をやっていく上ではすごく重要なのだと思う。国も同じようなことをやっているのだから、連携していけたらいいと思う。【15】⑩

■成果指標や目標設定の見直し

・コンテンツと印刷とITの話もあるが、それと似たようなことで、現状をもっと分析すべき。もっと札幌の独自の視点で考えていく施策に取り組んだほうがいいのではないかと。【5】①

・例えば、女性起業家の話とかものづくりというのは、札幌が新たに考えたというより、国のメニューとしてあるからやるという発想がある。でも、そうすると、これは国の話だ、これは札幌の話だとなってしまう。そうであれば、ここで取り組むべきは、札幌として何をすべきかという問題意識をもう少し持つべきことだと感じる。【6】②

・結局、各事業に目的があって、その目的が達成できているかどうか、成果の分析があまり意識されていない。やはりそこも意識して、大きな枠組みとしてどういう目的に向かってこの施策があって、現状はここまで成果を上げているというような分析がまだまだ不十分。【7】③

・行政的な目標値の作り方で、それを成果指標と見たときには、ある意味で実現不可能なものが立てられていて、仮にそれが実現できなかったとしても特段問題にならない可能性がある。それは、成果をちゃんと後づけしましょう、評価しましょうということからすると、指標としてもう役に立たない。成果指標として考えたからには、それは一応できるものとして本来立てたはず。なぜできなかったのかということは、やはり見なければいけない。【8】⑫

- ・経済の細かい事業レベルだと、成果というよりも目標を具体的にどう設定するかが大事。経済的な施策というのは、雇用につながるか、生産額につながるか、大きく言うとそういう世界。非常にシンプルだけれども、そういうこと考え方を入れていくと、何を指して、そのために何をやるかというところのリンケージがもう少しはっきりする。全体的に、直接的な目標が何かということがすごく薄くなってしまっているというところが問題。【9】③
- ・普通に考えたら、成果指標をいっぱい比べて、どれくらい成果が上がっている、上がっていないということを一番言えそうな分野なのに、我々の行政評価の報告書はそういうことが言えないような形で終わってしまいかねない。そうすると、むしろ、それをちゃんと言えように指標をうまく定めてくださいというところから始めなければいけないのかもしれない。【10】③
- ・今、業態は融合している。コンテンツとITは完全に融合しているし、例えば印刷業でも、3Dプリンターはコンテンツとも直結している。そういうことを考えていくと、数値は絶対必要だと思うが、札幌型の成果の出し方があると思う。札幌だからこそできる印刷、コンテンツ、IT産業の融合のあり方とか、それによって生まれた経済効果とか、そういうふうに出していくことが今の時代に合っている。札幌市としての成果目標の見せ方というのは検討すべき。そうすると、確実に成果が上がっている部分があることがわかるのではないかな。札幌らしい分類方法や成果の出し方みたいな検討は必要。【16】①
- ・結局、それによって雇用がどれだけ生まれたのかとか、全体として見て札幌市の経済はこの分野においてどうやって大きくなったのかとか、そういうふうに見ないと、融資額が幾らだとか、何件に貸しましたという話は意味がない。【17】③

■ 市関係部局の連携が必要

- ・特に経済の部分については、札幌市のほかの所管部局との横串、横との関係とか、それを総合した評価が本来必要。特に、それは、経済だったら経済局のほうからそこにアプローチして統合していかなければいけない。そういう視点がどのくらい持たれているのか、多少不安な感じがした。【11】④
- ・札幌らしい観光資源をつくったりというようなことをやろうということは、市町村レベルだからできることというのも本当はある。全部、横串で見て、札幌市の持っているものを使っているいろいろなやり方があると思う。各部署から1人ずつプロジェクトメンバーを選抜して、札幌未来プロジェクトとか言って、市長と語り合っていないのだろうか。部署間を超える仕組みというのが何かないか。【12】④
- ・経済ということに関しては、むしろ幅広い分野の部分の政策を統一的にやれる体制、仕組みが必要。部局をかえるかどうかは別のどうでもいい話なので、やっぱり経済的な視点で全体を見ることに今までよりも重点を置いて政策を執行する、札幌市の現状からいったらその必要があるのではないかな。【13】④